

・研究対象者

第1群：安全指導を行い、今年度からマウスガードを装着させる。

レスリング部(4) バasketボール部(17)  
ウエイトリフティング部(4)

野球部(26) 計51名

第2群：平成9年よりマウスガードを既に装着し活動している。

ラグビー部(21) 計21名

第3群：安全指導は行いが、マウスガードは装着しない。

ソフトテニス部(9) 陸上部(15)

スケート部(5) バレー部(9)

卓球部(13) 計51名

3 マウスガードの作成

(1) フォームドタイプマウスガード作成

平成18年9月8日 明海大歯学部長安井先生による安全指導後、マウスフォームドタイプマウスガードの作成を行った。歯列を覆う馬蹄形の樹脂を約80℃の湯に浸し軟化させてから、個々の口に挿入して形を整えて作成するものである。このタイプは、多くの種類があり容易に加工することができる。個々の歯型に合せたカスタムメイドタイプ作成の事前指導の一環として各自が製作し、その後の活動で装着させた。



(2) カスタムメイドマウスガード作成

カスタムメイドタイプは個々の歯の模型から作成されるので装着感に優れているマウスガードである。

・10月15日 マウスガード型取り

岩手県歯科医師会、学校歯科医、岩手医科大学歯学部学生の方々からご協力をいただき第1群の型取り行う。

・11月21日 マウスガードセット

安井先生による「安全指導」の後、岩手県歯科医師会、学校歯科医の協力で生徒一人ひとり調整を行いマウスガードをセットした。セット後は、全員が装着して部活動を行った。



4 知識習得のための講習会開催

(1) 平成18年8月24日 本校百年館研修室

講師 社団法人岩手県歯科医師会  
副会長 小林琢三氏

「スポーツの安全を考える」

(2) 平成18年9月8日 本校百年館研修室

講師 明海大学歯学部長 安井利一氏

「マウスガードの効果とスポーツの安全」

(3) 平成18年11月21日 本校百年館研修室

講師 明海大学歯学部長 安井利一氏

「スポーツにおける事故防止と競技力向上」



5 安全意識調査の実施とその結果

(1) 安全意識調査の継続

平成18年8月に事前調査を実施し、その後、知識習得のための講習会とマウスガード装着後において安全意識調査を計4回実施した。生徒の安全に対する意識の変化を考察し、指導のあり方と事故の防止に役立てていくことがねらいである。



今年、10月には、装着状況についても最終調査を実施した。

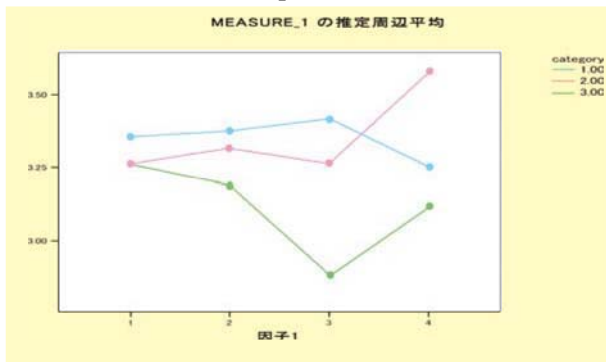
(2) 調査結果

ア 事前調査 マウスガード使用経験

- 第1群 51名中4名  
(マウスガード自体知らない6名)
- 第2群 21名中21名
- 第3群 51名中0名  
(マウスガード自体知らない14名)

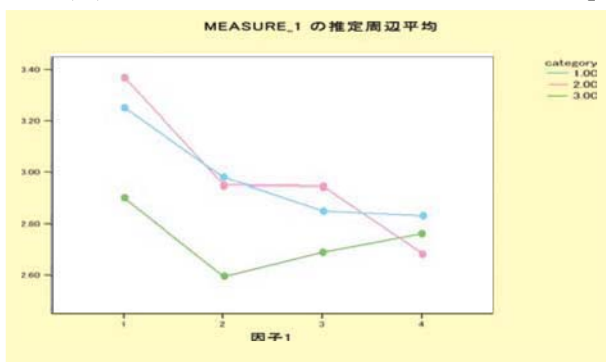
イ 平成18年度実施の4回の意識調査結果から一部抜粋(調査分析は、明海大学歯学部長安井利一先生からご提供いただく)

(ア)「あなたは、自分の工夫や努力によってけがを防げますか」



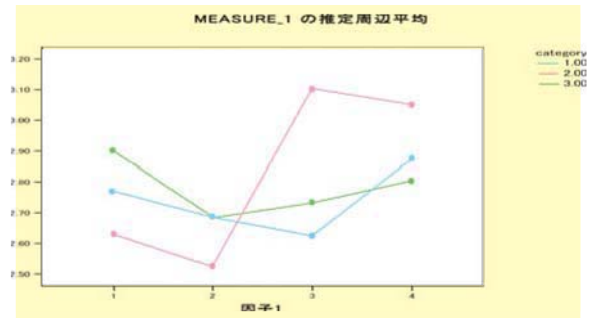
※MG群では工夫や努力すべき事柄があるとの理解が向上している。マウスガードの一連の学習において、安全に関する意識は教育の内容に連動して変化を示した。

(イ)「あなたは、運が悪いからけがをしますか」



※MG群では運ではなく努力すべき事柄があるとの理解が向上する。安全に関する意識は教育によって向上した。

(ウ)「スポーツをしている時、自信をもって安全に行動している」



3群とも増加しているが、マウスガードの講習が自信をもって安全に行動することに影響を与えていると考えられる。

4回の安全意識調査の結果から、マウスガードを学習教材とした安全教育は、安全に対する自己努力の及ぶ範囲での改善が期待できる結果となった。

ウ マウスガード装着状況の確認調査

(平成19年10月の調査から)

マウスガード作成後1年後の装着状況は、第2群(ラグビー部)が100%着用しているのに対して、第1群生徒の着用率が40%と低くなっていた。理由として、話しづらい、違和感が強い、つばが溜まるなどの回答があった。

6 部活動における事故防止と安全指導に関する取り組み

研究主題達成のため研究組織の一つである保健厚生部では、マウスガードの指導と並行して部活動の事故防止と安全指導について計画を立て事業に取り組んできた。主な事業は以下の(1)~(4)である。

(1) 運動部活動における過去の事故発生状況を把握し、各部毎に安全対策をシートにまとめる。

全運動部の事故発生状況についてスポーツ振興センター災害共済医療費請求から過去9年分を遡って調査し、顧問が各部毎の事故発生状況をもとに、「運動部における安全な指導のために」として安全対策をワンシートにまとめた。

安全対策シート作成観点は、1方法の要因、2個体の要因、3環境の要因の3つとし、内容を以下のア~カとして作成した。

- ア 部活動計画における安全対策
- イ 実際的な活動と指導における安全対策
- ウ 施設設備・用具の安全
- エ 健康管理(含む栄養・熱中症など)並びにメンタルヘルス上の安全対策

オ 事故発生時の緊急連絡体制の取りかた

カ 事故事例の分析と対策

以上について日常行われている安全対策と指導をワンシートにまとめる作業を通じて、各部において各視点から考察が行われ、安全指導と対策の具体化が図られた。日常の指導を見直す良い機会であったと部顧問から感想をもらうことができた。

(2) 学校保健委員会において、部活動における全指導のあり方を協議した。

平成19年2月22日(木)、学校医、保護者代表、関係各部顧問等の参加を得て、テーマ「運動部における事故防止と安全指導について」とし協議を行った。

各部の過去10年分の事故・傷害統計の考察、その対策と取組みを発表し、意見交換や学校医から助言をいただいた。

保護者代表からは、部活動が活発になれば事故は発生しがちである。各部における競技力向上と事故防止の取組みを知ることができた。心と身体の健全育成のために今後も指導をお願いしたいと結んだ。



(3) 部活動の安全指導取組みに関する広報活動

本研究事業とその取組み・内容そして、学校保健委員会で協議された部活動の安全な推進について、PTA版保健便りとして生徒の全家庭に直接郵送して事業の取組みを紹介した。

(4) 救急救命講習の開催

ア 平成19年2月14日(水) 教職員対象

教職員については、普通救命講習会を開催しAEDを使用した心肺蘇生法、部活動で発生が多い負傷の応急処置について緊急時の対応を学んだ。

イ 平成19年2月16日(金) 1年生対象

AED講習会

生命の尊重、自他の安全を守る目的から、全1年生を対象に心肺蘇生法を教科保健で毎年実施している。

## V 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

本校ラグビー部では、岩手県歯科医師会の先生方の協力をいただき、10年以上前からマウスガードを装着して安全意識を高める指導を行ってきた。採用後は、接触の多いスポーツであるにもかかわらず、口腔・歯牙等の怪我が減少してきた。

このことから、各運動部におけるケガの予防と競技力向上にも活用できるのではないかと2年間研究事業に取り組んできた。

研究の成果として

- (1) 運動部の活動時にマウスガードを活用することにより、事故やケガの発生は運や偶然ではなく、その防止には工夫や努力すべき事柄があると理解が向上した。マウスガードは生徒自らが実践できる傷害予防の方法として部活動に役立つといえる。
- (2) マウスガード作成と安全に関する講習、安全意識調査を継続していったことにより、安全に対する意識を高め、自信をもって安全な行動をとる意識を継続させることができた。
- (3) 本研究事業の推進の一環として部活動の安全指導の推進について並行して行った事により、生徒だけではなく、指導者や保護者に対しても安全意識を高めるよう働きかけることができた。研究のために特設した組織による指導の展開ではなく、既存の組織のもとで研究事業に取り組んできたことは、今後の部活動の安全指導を継続していく下地とすることができた。

### 2 今後の課題

- (1) マウスガード装着と安全指導の継続は意識調査によって安全意識・行動の向上につながるが示された。しかし、「自分の身を守る道具」と分かっているにも関わらず、時間の経過と共にその意識と行動化が徐々に低下していくこともわかった。課題として、違和感を少しでも取り除くために、マウスガードはできるだけ早い時期から着用させていきたい。
- (2) マウスガードの装着は、指導者自らが部活動の安全指導の中で生徒の安全を守り、競技力を向上させていくことにつながる自覚を持ち、指導の有り方として、装着の確認を怠ることなく、押しつけではなく生徒自らが着用しなければという意識を保てるような指導の継続が求められる。
- (3) マウスガードの効果を広めるために、単に生徒個人や部活動、学校レベルの活用と捉えず、競技団体等にも働きかけることも必要と考える。

